

# 令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

## 日立市 解答と解説

組	番	氏名	
---	---	----	--

番号	解 説	答
1	水木(みずき)町出身の遠山喜一郎(とおやま きいちろう)は、昭和11年のオリンピックに出場し、その後、日本体操協会副会長になり、日本に新体操を紹介し広めることに力を尽くしました。遠山は、戦後のラジオ体操再改訂版(現在のラジオ体操)を、原案作成委員の中心となって作り上げました。その体操は、動きのつなぎとリズムの流れがすばらしく、1951年(昭和26年)からラジオ体操の放送が開始されました。	3
2	海に沿った階段状の段丘を海岸段丘(かいがんだんきゅう)といいます。現在の日立の市街地の多くは、かつて海底であったところですが、多賀(たが)地区で見ると、駅や多賀市民プラザのある台地、諏訪(すわ)小学校や平和台団地のある台地、潮見台(しおみだい)団地のある台地と3段以上の段丘があります。	4
3	日立市の国際親善姉妹都市バーミングハム市は、アメリカ合衆国南東部アラバマ州の中心都市です。市内には、日本庭園も含め数多くの公園があり、豊かな生活環境を持ったまちです。まちのシンボルであるバルカン像(ローマ神話に登場する火と鍛冶(かじ)の神)は、このまちが鉄鋼業によって目覚ましい発展を遂げた歴史を表しています。	1
4	日立市の鳥であるウミウは、カツオドリの仲間には分類される鳥です。全長は約80センチメートルで、海に潜って魚を捕まえます。	2
5	古代信仰が続く神秘的な雰囲気が漂う霊山。神仏を祀(まつ)る社として、他に見られない信仰をもちます。正月時期には、旧御本尊「大日如来(だいにちによらい)」を御開帳します。最近ではパワースポットとして人気があり、県外からも多くの観光客が訪れています。境内にある通称「御岩山(おいわやま)の三本杉」は県指定天然記念物であり、森の巨人たち100選にも選ばれています。昔、この三本杉の三叉(さんさ)の部分に天狗(てんぐ)が住んでいたとの伝説があり、別名「天狗杉」ともいわれています。	4
6	日立市(日立市天気相談所日立市役所観測所)の平年(1981年～2010年までの30年間の平均)の真夏日(最高気温が30度以上の日)の日数は23日(22.8日)です。水戸の真夏日は32.6日、つくばは38.5日と日立は10日以上も少なく、県内の都市の中では、暑い日が少ないことがわかっています。	2
7	戦後、日本の工業発展のもとになったのは石炭です。石炭は、黒いダイヤとも呼ばれ重要な地下資源でした。日立地方でも、十王町で石炭が産出され1965年(昭和40年)ごろまで掘られていました。	3
8	日立中里フルーツ街道では、選択枝の4つの果物すべてを栽培していますが、リンゴが最も多く栽培されています。リンゴやブドウ等、果物狩りのできる農園も数多くあります。	1
9	煙害対策の司令塔として活躍した、日立鉱山の神峰(かみね)山観測所は、1910年(明治43年)に設置され、煙害対策としての役目を担ってきました。1952年(昭和27年)に日立鉱山から日立市天気相談所に所属が変わり、1973年(昭和48年)に無人化されるまで、職員が常駐し、日立市の発展を見つめてきました。神峰山観測所の建物は、現在、防災行政無線の中継所として活用されています。	2
10	吉田 正(よしだ ただし)は、1921年(大正10年)1月20日、現在の日立市鹿島町で生まれました。日本ビクターの専属作曲家として多くのヒット曲を生み、「誰よりも君を愛す」「いつでも夢を」は、日本レコード大賞を受賞しました。生涯およそ2,400曲作曲し、1998年(平成10年)に享年77歳で永眠しましたが、その年国民栄誉賞を受賞し、日立市名誉市民となりました。	4
11	1905年(明治38年)に日立鉱山が開業し、鉱山から排出される煙は周辺の樹木・農作物を枯らしました。関 右馬允(せき うまのじょう)は、23歳で入四間(いりしけん)地区被害民の代表としてその予防に取り組みました。このときの煙害問題解決にあたっての人々の良心と情熱は、新田次郎の小説「ある町の高い煙突」(1969年刊)にまとめられました。	2
12	日立市は、電気機械産業を中心とした工業都市です。戦後急成長し、代表的な企業城下町となりました。しかし、1990年代以降、景気の停滞、経済のグローバル化やアジア諸国の勃興(ぼっこう)などにより、大きな変容をせまられるようになっており、今後は個々の企業の競争力の向上、取引関係の多角化、地域の事業間の連携が求められるとされています。	4
13	ポポーは、森のカスタードクリームと言われるほど、甘く濃厚な味と香りが特徴の果物です。ポポーをむらおこし事業に取り入れ、1991年(平成3年)にポポーを活用した関連商品の開発に着手し、1997年(平成9年)にはポポースウィートワイン、1999年(平成11年)にはポポーアイスクリームの商品化に成功しました。	3
14	水戸藩第九代藩主の徳川斉昭(とくがわ なりあき)は海防重視の政策をとり、1836年(天保7年)に家老山野邊義親(やまのべ よしみ)を海防惣司(かいぼうそうし)に任命して、助川村の高台に築いた海防のための城郭に居住させました。この城郭を現在、助川海防城(すけがわかいぼうじょう)と呼んでいます。助川海防城は、1864年(元治元年)9月、水戸藩の内乱で焼失しました。	1
15	奥日立きららの里は、約48ヘクタールの園内に、キャンプ場やケビン、ふれあい牧場などがあり家族で楽しむことができる施設です。「わくわくスライダー」は、長さが1,188メートルあり、現在日本一の長さを誇っています。	3
16	長者山(ちょうじゃやま)遺跡からは、奈良時代の堀立柱の建物跡、平安時代の礎石立ち建物跡とそれらを外部と分ける大きな溝、さらに道路跡が見つかっています。道路は都と地方(陸奥の国の役所)を結ぶ重要なものです。	2
17	かつて、茨城県には北茨城市平潟(ひらかた)沖や日立市会瀬(おうせ)沖に複数の定置網がありましたが、2000年(平成12年)からは日立市会瀬町のみとなりました。定置網は一定の場所に設置されているため、水揚げ量は海水温や潮の流れ、魚の動きなどに大きく左右されます。平成30年度は、サバ約270トン、イワシ約36トン、ヒラメ約6トン、ヤリイカ約2トンが水揚げされました。	4
18	1833年(文政8年)、領内を巡っていた水戸藩9代藩主の徳川斉昭(とくがわ なりあき)は、諏訪(すわ)神社を詣(もう)でて、近くの鮎川の岸に梅を植栽(しよくさい)することを命じました。以来、たくさんの人々によって大切に守られ、現在は憩い(いこい)の場になっています。	1
19	染井吉野(そめいよしの)が約130本植えられている平和通りは、春には見事な桜のトンネルになります。	3
20	日立鉱山では、日立鉱山の鉱石だけでなく、他鉱山の鉱石も買い入れた製錬の大規模操業をねらい、助川駅から大雄院の製錬所までの間に日立鉱山電気鉄道を設置しました。鉱山電車は、1908年(明治41年)10月から、1960年(昭和35年)5月まで運行しました。	2
21	日立市は、県内で最長の約35キロメートルに及ぶ海岸線があり、県内最多の6つの海水浴場があります。環境省が水質の良さなどを基準に選定する快水浴場100選に市内からは伊師浜(いしはま)、河原子(かわらご)、水木(みずき)の3つの海水浴場が選ばれています。	4
22	堅破(たつわれ)山は、日立市内で一番高い山で、標高は658メートルです。ブナ林は豊かな森の象徴として知られています。	1
23	暇修館(かしゅうかん)は、150年以上前に水戸藩の郷校(ごうこう:庶民を教育するための学校)の1つとして建てられました。当初は、興藝館(こうげいかん)といい、村医者(むらいしや)の研修施設でしたが、1844年(弘化元年)に暇修館と改め、学びたい者に広く門戸を開きました。	2
24	茨城港日立港区第3埠頭(ふとう)に隣接する港湾関連用地で、日立市と県が共同で整備を進めてきた輸入車用の保管場所 第8モータープールが完成しました。市内最大規模の約3,500台を収容でき、欧州から輸入されたドイツのメルセデス・ベンツ車を保管することができます。	3
25	2009年(平成21年)に京都祇園祭の山鉦(やまほこ)行事などととも、日立風流物(ひたちふうりゅうもの)が、ユネスコ無形文化遺産として記載されました。また、2016年(平成28年)には国内33の祭り「山・鉦(ほこ)・屋台行事」の一つとして、改めて記載されました。最近では、和紙や和食もユネスコ文化遺産になっています。	4